

「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」

事業報告書

学校 番号	19	学校名	揖斐高等学校	課程	全日制
----------	----	-----	--------	----	-----

事業の名称	揖斐高版デュアルシステムの開発 ～揖斐高 next innovation (就業実習への取組)～
-------	---

1 3年間の事業の概要

○学力の定着と向上、体系的・実践的なキャリア教育の推進を領域とする取組。
地域の外部リソース（行政、企業、商工会議所等）との連携による教育資源を活用した就業実習を中心に単位の認定を行う学校設定教科・科目『デュアル実習』の開設を研究・実践する。「やるべきことを考え、学ぶべきことを見つける」目的意識の育成を目指した、実践的取組を実施する。

2 3年間の取組

(1) 先進校への視察

平成16年度・17年度に文部科学省から研究指定を受けた学校を中心に選択。
本校の実施計画規模に類似する学校や校種等を考慮して選択した。

◎訪問した学校は以下の通り

三重県立桑名工業高等学校・長野県立池田工業高等学校・大阪府立布施北高等学校
東京都立六郷工科高等学校・福岡県立戸畑工業高等学校・長崎県立五島海陽高等学校

(2) 講演会の実施

本事業の取組の一つとして、基調講演を実施した。県議会議員国枝慎太郎先生、揖斐川町内各中学校の保護者の方、揖斐高校保護者の方、揖斐川町内教育関係者の皆様、岐阜県教育委員会の先生方、各高等学校の先生方等多くの方々に参加していただきました。60分の講演内容は、実に多くの示唆に富んでいました。

ア 実施日 平成25年10月19日(土) 14:00～15:00

イ 会場 揖斐川町谷汲サンサンホール

ウ 対象 揖斐川町内各中学校保護者、揖斐高校保護者、揖斐川町商工会

エ 講師 児美川 孝一郎(こみかわ こういちろう) 法政大学キャリアデザイン学部教授。

オ 演題 『若者の就職が困難な時代にー保護者、学校、地域にできることー』



(3) 企業見学会の実施

県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業の実施にあたり、就業にかかわる学習（企業見学会）を実施した。勤労観・職業観を養い、主体的に進路を選択する能力や問題を解決する能力を身につけて、将来の在り方や生き方を育成することを目的に実施した。

ア 実施日

平成26年1月23日（木） 13:20～15:10

イ 見学企業

アピ株式会社 本巢工場（〒501-0474 本巢市国領98-1 Tel 058-323-0833）

株式会社 大鹿印刷所（〒501-0512 揖斐郡大野町上秋357 Tel 0585-36-0001）

ウ 対象生徒

平成25年度1年1組（普通科） 17名

平成25年度1年2組（普通科ビジネスコース） 17名



(4) インターンシップの実施

次年度、『デュアル実習』を実施するにあたり、該当クラスの就職希望者全員に、2年生の夏季休業中に、インターンシップを実施した。『デュアル実習』を希望する生徒への参加意識を、きちんと持たせるため、就職希望者全員を対象に実施した。インターンシップそのものは、短い期間であったが、次年度「デュアル実習」を行うにあたり、働くことへのイメージはきちんと持てたようである。

(5) 連携事業所・就業先の確保

年度末より、郡内事業所を中心に、約40社ほど説明に回る。今年度、その中から、実習希望生徒の職種等に応じて、4社に受入を依頼した。依頼を受諾した企業は以下の4社。

西濃建設株式会社（男子1名）・株式会社 ふる里 いび（男子1名）

株式会社正札堂（女子1名）・JAいび川（女子1名）

各企業とも、受入受諾を「デュアル実習参加登録申込書」で、文書にて回答を得た後、面談指導実施した。その後、学校から該当生徒の「デュアル実習」の受け入れについて依頼をし、『デュアル実習受け入れ承諾書』にて回答を得た。

(6) 生徒・保護者、学校、実習先との連携

「デュアル実習受け入れ承諾書」にて回答を得た後、生徒・保護者、学校、実習先との間で、「デュアル実習協定書」を締結した。その内容は、目的、実習内容、単位認定、費用弁償、緊急対応、損害負担・賠償責任、期間、疑義の決定の8項目である。協定の証として協定書を3通作成し、各自記名捺印の上、おのおのその一通を保有するものとした。



(7) 学校設定教科・科目『デュアル実習』実施（平成27年度）

年間20日の実習を行った。以下はそれぞれの実習内容・様子・感想である。

西濃建設株式会社

実習の内容

- 測量
- 管理矢板マーキング
- スパンシール設置
- 足場材解体
- 養生マット撤去



感想

- 学んだこと
 - ・働くことの大変さ
 - ・社会人としての心得
- 身についたこと
 - ・測量の基本、社会人としてのマナー



株式会社 正礼堂

実習の内容

- 品出し
- 商品整理
- 値札付け
- レジ業務
- 接客



感想

- 学んだこと
 - ・何事も社会に出たら必要な基礎である
- 身についたこと
 - ・進んで行動すること
- これから生かしていきたいこと
 - ・あいさつや礼儀



いび川農業協同組合

実習の内容

- 清流の里
入浴、トイレ介助、レクリエーション
- ファーマーズマーケット
野菜つめ、レジ打ち



感想

- 学んだこと
・相手の事をきちんと見ること（目を見ること・行動を観察すること）
- 身についたこと
・苦手だったコミュニケーションがうまくとれるようになった



株式会社 ふる里 いび

実習の内容

- 畝づくり
- 収穫
- 草刈り

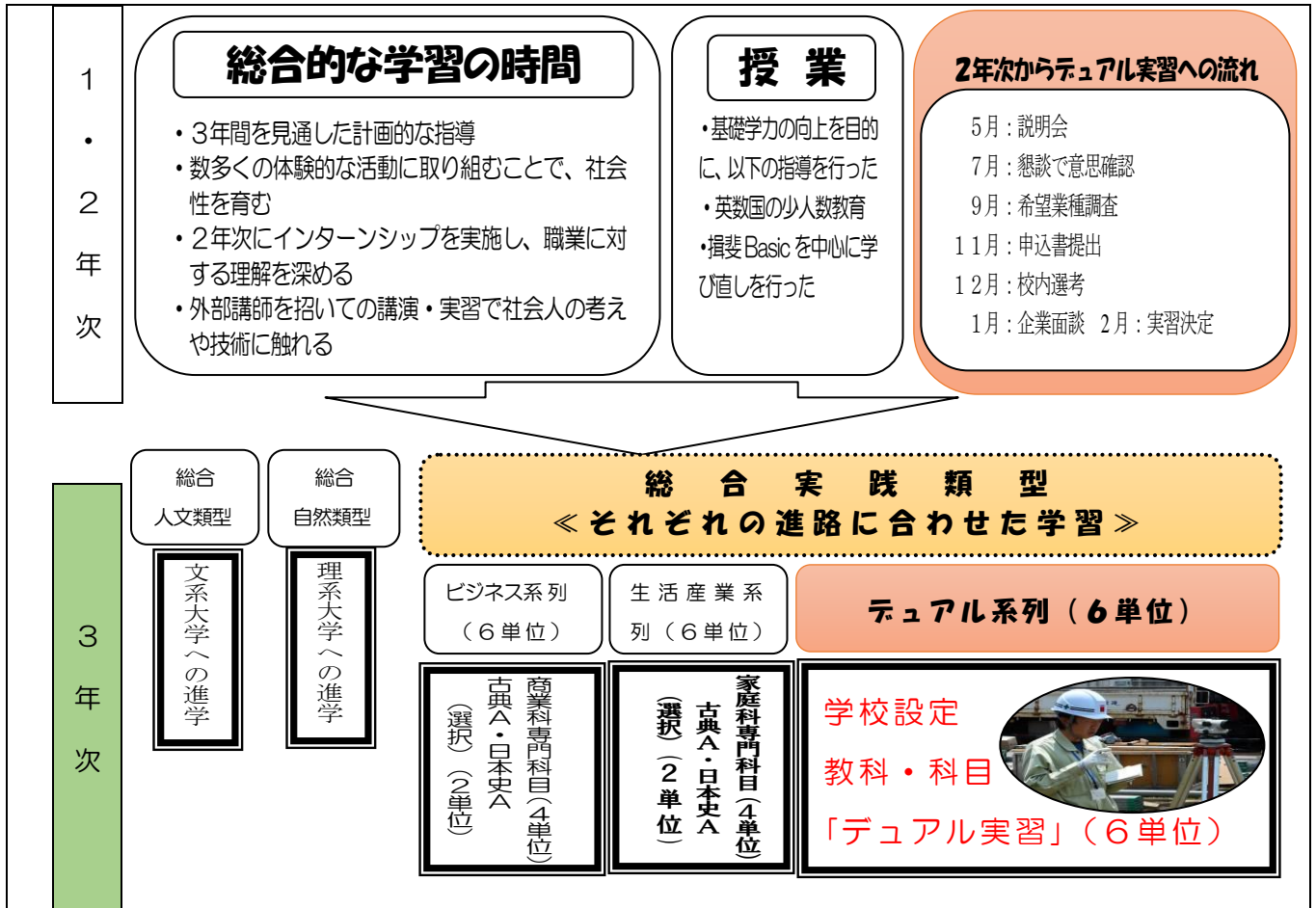


感想

- 学んだこと
・働くことの辛さと達成感
- 身についたこと
・知識や技術、そして忍耐力



カリキュラム上の位置づけは以下の通りである



3 成果の分析

◎実習を通して、生徒の社会性・自主性・責任感が育まれた。

○平成27年度4月～1月に年間20日の『デュアル実習』を行い、多くの企業の方々と接することで、社会性を身に付けた。

○高校生活に対して自主的に取り組む姿が見られるようになった。

○卒業生活発表会および就業実習報告会に向けて準備発表までを自らの力でやり切らせることで、責任感を育てることができた。



【関連資料】

生徒の感想より抜粋 (一部)

- ・社会の厳しさ・暖かさ・そして社会人としての姿勢を教わった。
- ・コミュニケーションがどの職種にも必要だと知った。
- ・実習が支えになり、学校生活にメリハリができた。
- ・実習先への就職が決まり、継続して力が発揮できる。

- ・挨拶や礼儀が何よりも大切だと知った。
- ・学校から離れて初めて、自分で打開する必要性を感じた。
- ・叱られたり、褒められたりすることで人は成長できることを知った。
- ・学校で定められたルールには意味があることを改めて知った。
- ・指示待ちの姿勢では社会では認められないことがわかった。

4 課題と今後の対応

(1) 天候不順時の対応

今年度2名の生徒が、主に屋外での実習を行ったが、雨天時等の対応を企業と綿密に連絡を取り合う必要があった。また急遽実習場所を学校に移したこともあったため、雨天時の課題や作業を再考する必要がある。校内の美化活動などを取り入れることを検討している。

(2) 不登校生徒等の対応

初年度は『デュアル実習』の存在が不登校になりかけた実習生の高校生活を継続する決断をさせる契機となり、プラスアルファの効果をもたらしたが、今後、学校に登校できなくなった生徒が出現した場合、企業への説明等対応をシミュレーションしておく必要がある。

(3) 保護者への連絡

次年度の実習先を選定する過程で、就職に繋がらない実習先へ、子供を送ることを懸念する保護者の声が聞かれた。担任を通して、ステップごとに保護者と連絡を密にすることで、『デュアル実習』の意義や、『デュアル実習』＝『就職』ではないことをその都度伝えていく必要がある。

(4) 実習先の条件への対応

「検便」などが自習受け入れの条件として盛り込まれることがあり、家庭の財政面などを考慮する必要性が出た。また「給食」を取り入れている実習先もあり、またその料金にはばらつきがある。実習先の特性（園児や入居者さんとの交流など）に極力合わせる必要性もあるため、「給食」などは積極的に実習生には勧めていきたいが、同時に家庭の負担にもあるため、その都度家庭に連絡をし、負担が可能か確認していく必要がある。

(5) 学習成果発表会での成果発表の実施

リーディングプロジェクト最終年ということもあり、『デュアル実習』就業実習報告会前に学習成果発表会（学校行事）の場で発表を行った。結果的には中学生や保護者、地域の方たちに『デュアル実習』を認知してもらう貴重な場にすることができた。当初は就業実習報告会の練習という位置付けであったが、学習成果発表会で発表の機会を持つ意味合いも強かった印象を持っている。来年度以降も2回の発表の機会は確保していきたい。

5 平成28年度以降も継続する取組

(1) 『デュアル実習』就業実習報告会

平成28年度も『デュアル実習』の集大成として「平成28年度『デュアル実習』就業実習報告会」を平成29年2月初旬に実施予定である。（平成29年度以降も継続）

6 成果の普及（予定を含む）

(1) 『デュアル実習』の報告会を平成28年1月16日に行われた揖斐高等学校学習成果発表会の場で実施した。参加者は本校生徒全クラス・保護者・連携中学校生徒と教員など（郡内中学校へ案内送付済）である。

(2) 「平成28年度『デュアル実習』就業実習報告会」を平成28年2月3日に実施（実習受け入れ先企業などに案内送付済）した。

(3) 本年度までの事業報告のリーフレットを作成して、平成28年5月以降に近隣中学校・県内公立高校へ配布する予定である。

7 自校の成果を他校が活用する場合の留意点等

◎地域人材、地域資源の開発について

- ・関係機関として揖斐建設業協会と連携することができた。
- ・本校生活環境科の実習先で繋がりのある企業や幼稚園などが積極的に受け入れてくれたことから、元々ある繋がりをフルに活用する必要性がある。
- ・地域への還元として、最終的に地域に就職することが望ましいが、初めからその点を前面に押し出してしまうと、人材確保の青田刈りにもつながりかねないので、その点は留意する必要がある。